

ZOCALO 2013 6・7

ZOCALO ソカロはメキシコの都市の広場を意味するスペイン語。埼玉県立近代美術館はアートを通して交流する市民の広場をめざしています。

デザインが夢見るもの 企画展「浮遊するデザイン - 倉俣史朗とともに」

会期：2013年7月6日(土)～9月1日(日)

私たちを夢のような境地に誘い出す、一脚の椅子があります。倉俣史朗がデザインした《ミス ブランチ》です。造花の蕾を透き通ったアクリルの中に封じ込めたこの椅子は、重力や実体を意識させない軽やかさや浮遊感に充ちています。その一方、アクリルの中で固まった蕾の姿は、時間を切断し、凍結させたかのようにも見え、永遠の静寂や死の気配さえほのかに漂ってきます。もし私たちがそっと腰をかけたら、どんな物語に包まれるでしょうか。椅子の名前がテネシー・ウィリアムズの『欲望という名の電車』のヒロインの名に由来するというエピソードも含め、さまざまなことを夢想してみたいものです。それは、私たちの身体というより、むしろ夢や想像力が座するための椅子といえるかもしれません。



倉俣史朗《ミス ブランチ》1988年
埼玉県立近代美術館蔵

この主役である倉俣史朗(1934-1991)です。ご存知の方も多いと思いますが、倉俣は戦後のインテリア・デザイン、家具デザインの第一線で活躍し、1981年にはミラノのデザイン集団「メンフィス」に参加するなど、国際的にも高く評価されたデザイナーでした。

倉俣が自らのデザイン事務所を立ち上げ、精力的に活動を始めたのは、1960年代半ばに遡ります。その当時、まだデザイナーと無縁であった商業空間に目を向け、斬新な発想で内装のデザインを試み、高松次郎や田中信太郎といった美術家と交流しながら協働した仕事も残っています。70年代半ばからは、ファッション・デザイナーの三宅一生から数多くのブティックの内装を依頼され、独創的なインテリア・デザインを次々と展開していきました。



また家具デザインに
1967年に倉俣史朗が内装のデザインを手掛けた「クラブ カサドール」(東京・新宿)。壁面には高松次郎によってさまざまな人物の影が描かれた。撮影：藤塚光俊

また家具デザインにおいても倉俣は、ものやデザインに対する考え方を根本から転換させる仕事を試んでいます。例えば、倉俣のデザインの中には、厚さ12ミリの板硝子で出来た椅子があります。椅子という、使いやすいか、座り心地がよいかという点をすぐに私たちは考えてしまいがちです。しかしこの透明な硝子の椅子は、実用性/非実用性という観点を超え、椅子の原初の姿を思い起こさせてくれます。つまり、まるで無垢な椅子が生まれる瞬間に立ち会うかのような、新鮮な出会いをもたらしてくれるのです。そこには、デザインの要素を減らし極限の状態で用いることで、ものの真の姿を現前させる倉俣の手法が、見事に現れています。

倉俣は、子ども時代の記憶をまとめた『未現像の風景』という本を書いています。そのあとがきでは、デザインの着想が子ども時代の記憶にしばしば同調すると述べています。肉体と精神が未分化な子ども時代の体験は、内面に深く刻まれ、言葉で分析できない無意識の世界に蓄積されるものです。倉俣はそうした子ども時代の体験とデザインの仕事を、詩人のように巧みに接合していく能力に長けていたのだと思います。だからこそ倉俣のデザインは、クールで理知的に見える一方で、無意識の世界に詩的に響くような音色を奏でているのではないのでしょうか。

この展覧会は、倉俣の代表的な作品を展示するだけでなく、若き日の倉俣が影響を受けたもの、さらには親交が深かった美術家やデザイナーの作品や資料もあわせて紹介します。倉俣が生み出したデザインが、時代を超えて世界中から愛されるのは何故なのかを探る、絶好の機会になるでしょう。(I.H.)



倉俣史朗《硝子の椅子》1976年
三保谷硝子店蔵/撮影：藤塚光俊

サクラソウの壁画、覚えてますか？

生誕100年記念 点描の詩情 - 高田誠の世界

「浦和絵描きに鎌倉文士」とは、ちよくちよく聞く言葉ですが、浦和は画家と縁の深い土地柄として知られています。浦和周辺にアトリエを構えた画家や浦和ゆかりの実力派の画家たちを思い浮かべてみると、礎を築いた跡見泰、寺内萬治郎、奥瀬英三から、林俊衛、四方田草炎、須田烈太、瑛九ら異彩を放った画家たち、高田誠、渡邊武夫、斎藤三郎、田中実、川村親光、小松崎邦雄、小川游ら、戦後、画壇の枢要を占めて活躍した画家まで、即座に十指に余る画家たちの名が上げられます。

なかでも高田誠(1913-1992)の作品は、<サクラソウ>をモチーフにした浦和コルソのアーチ状の大きなモザイク壁画(写真右)をはじめとして、浦和市役所(現さいたま市役所)の玄関やロビーの壁画、埼玉県館職《武甲山》、浦和市市民会館(現さいたま市民会館うらわ)縦横《武蔵野》、埼玉大学附属小学校縦横《花咲く海辺》など、暮らしに身近な場所であたたかな光彩を放ち、市民に親しまれてきました。大小さまざまな色点の集まりで構成される高田の作品は、装飾性や象徴性も兼ね備えており、モザイク壁画や縦横に相応しいものでもありました。



撮影：青山森之

1913年、代々続く医家の次男として浦和に生まれた高田は、旧制浦和中学校在学中にわずか16歳で二科展に入選、翌年から安井曾太郎に師事し、本格的に画家の道を志します。

二科技塾(のちの善業技塾)に学び、1936年安井曾太郎らによる一水会創設に参加し、安井門下生の勉強会「蓮花会」結成に加わります。1940年前後は、師の影響



高田誠《秋の静物》1941年

選。翌年には《松原湖辺》が特選となり、新たな展開への確信を深めています。

信州を中心に国内各地にしばしば取材旅行に赴きましたが、家にいるときは盆も正月もなく1年365日、朝9時から夜10時まで食事や休憩時間を除いてアトリエに籠もって制作という暮らしぶりだったようです。点描で制作に時間がかかるということもあったのですが、まさに絵の虫の生活ですね。



高田誠《妙高山麓の町》1962年

戦後も一水会展や日展を中心に活躍が続きます。高田は人望も厚くまとめ役としても天与の才があったようです。1960年には一水会運営委員、翌61年からは埼玉県美術家協会会長として92年に没するまで30年以上にわたり、埼玉県の美術振興と後進の育成にも尽力しました。78年には日本芸術院会員、83年には日展理事長となり、87年に文化功労者として顕彰、90年には浦和市名誉市民となるなど、画家として数々の栄誉に包まれた生涯を送りました。



高田誠《花咲く海辺》1967年

今回の特集展示では、生誕100年を記念し、16歳のデビュー作《浦和風景》から、初期点描の頂点をなす《野尻湖と妙高》、戦後の《妙高山麓の町》、《花咲く海辺》まで、当館所蔵の代表作を一壁に展示し、高田誠の詩情に富んだ点描の世界を振り返ります。(M.N.)

平成24年度の新収蔵作品を紹介しす

開館30周年を迎えた昨年度は、8件16点の作品や資料を篤志家の方々より美術館にご寄贈いただきました。なかでもまず注目したいのが、人気の高い埼玉出身の日本画家、小村雪信による二曲一雙の屏風です。何うところによれば、ご寄贈者のご尊父が雪信と親交があり、ご寄贈者の誕



小村雪信《武者絵貼り交せ屏風》1926年頃

生祝いに画家から直接譲り受けたのがこの作品とのこと。兜を被った馬上の武者の描写には、強く健やかな男の子に育ってほしいという画家の優しい願いがこめられているかのようです。

また埼玉ゆかりの美術家、瑛九の資料と、デモクラート美術家協会が活動を共にした泉茂による油絵など5点を、それぞれのご遺族からご寄贈いただきました。泉茂の作品は、当館にはこれまで版画作品しかありませんでした。これら5点の絵画にはデモクラート時代の貴重な初期作品も含まれているので、いずれデモクラートのテーマなどで展示を組み、公開していきたいと考えています。

地域ゆかりの作家の作品としては、2012年に展覧会を開催した吉野辰海氏のブロンズ作品《水犬》(ねじれた犬の巨大な彫刻をご記憶でしょうか。あの作品の仲間です)と、国際版画展で受賞したヨシズミ トシオ氏の版画2点があります。これらの作家の作品は当館に初めて収蔵されるもので、県内作家の近年の活動を収蔵品でフォローできるのはたいへん喜ばしいことといえます。



吉野辰海《水犬》1980年

日本の現代美術の観点からは、昨年、国立国際美術館で展覧会が開催された柏原えつとむ氏による書籍仕立ての作品《これは本である》の収蔵が重要でしょう。モノとそれを名指すこととの関係性といったテーマのひところある自己言及性がかたちにしたもので、「美術」という概念についていろいろと考えさせてくれる作品です。

このほか、県有施設から保管転換された日本画と油絵画があわせて4点、美術館の収蔵となりました。意義ある美術作品・資料の収蔵をめざして、今後も調査を進めていきたいと思っています。(T.S.)

「第63回埼玉県美術展覧会」を6/19(水)まで開催中!

※ 県展開催中は MOMASコレクションの 観覧料半額

新しく採用された学芸員を紹介した前回の記事「どうぞよろしく!」から5年。この4月に大浦周(おおうら・いたる)さんがメンバーに加わりました。ようやく後輩ができた渋谷学芸員がインタビューしました。

1981年に宮城県仙台市で生まれ、早稲田大学で美術史を専攻しました。博士課程まで13年間の長い学生生活でした。父に連れられて小学生の頃から奈良の寺巡りをした影響で古美術が好きになり、東洋美術を学ぼうと早稲田を選んだのですが、西洋美術の授業をきっかけにドイツ表現主義の絵画を研究するようになりまし

た。とは言うものの、4年生まで競走部員(いわゆる陸上部)だったので走ってばかりだったんです。箱根駅伝には3・4年に連続出場しました。美術では変わり種でした。そのあと大学院進学を決め、学芸員を志しました。文武両道というより、まず走り、それから美術に集中したと言いましょ。考え方の導きという意味で学生時代に一番影響を受けたのは、ショーペンハウエルの『意志と表象としての世界』です。

埼玉県立近代美術館で初めて見た企画展は、授業の見学会で来た「トルコ美術の現在」(2003年)。企画自体も面白かったですが、自分が美術館で働くことを意識し始めていたこともあって印象深かったです。

私生活ですか(笑)…。中学までピアノを習い、芸術家肌の先生にバルトークなどを聴かされました。現代音楽が好きなのはその影響かもしれません。最近の好みはプリバド・ピアノ。弦に異物を挟んだり載せたりすると、音の響きや調子が変わるんです。服が好きなので、海外モードのコレクション映像も見ます。我ながら趣味が拡散してますね(笑)。

やってみたい展覧会は、戦後ドイツの具象絵画です。社会主義リアリズムの作品を描かざるをえなかった旧東ドイツの作家たちから、「壁」崩壊後の若い世代までを体系的に紹介してみたい。また、MOMASにある印象派やエコール・ド・パリの作品を、正統的なフランスからの見方でなく、ドイツの視点で斜めにしてみるということも考えられます。「たまもの」展を見て、シャートグラフにもすごく興味を持ちました!

理想の学芸員像は「場のスペシャリスト」。知識や研究業績だけでなく、美術館の空間の特性や観客の動向を理解したうえで活動できるようになりたいとずっと考えてきました。早くMOMASのスペシャリストになって最大限のことをできるようにしたいです。

(聞き手: T.S./構成: H.O.)



「65歳以上」の方の観覧料が有料になります

2013年2月定例議会において県立の博物館等の条例が改正され、同年7月1日から65歳以上の方の観覧料を有料化することが決まりました。

2013年7月2日(火)以降は、65歳以上の方からも一般料金の観覧料を頂戴いたしましたので、どうぞご理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、65歳以上の方は、2013年6月30日までは企画展・MOMASコレクションともに無料です。入場時に確認いたしますので、年齢を確認できるもの(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください。

ミュージアムショップからのおすすめ商品

枝にとまって羽を休めるかのように、すらりと佇む小鳥さん。実は、その尻尾がペーパーナイフ。手紙の封を切る道具になっています。あなたの机や棚を彩り、届いた手紙を開けるお手伝いをしてくれることでしょう。ナイフといっても、カッターのように鋭い刃ではありませんのでご安心を。グリーン、レッド、イエロー、ブルーの4色があります。(Y.T.)



パーディー ペーパーナイフ
価格(税込): 525円
w101 x d9.7 x h39.5mm / 日本製

浮遊するデザイン - 倉俣史朗とともに

とき・7/6(土)~9/1(日) / ところ・企画展示室(2階) / 観覧料・一般1100円(880円)、大高生880円(710円)
※()内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をお持ちの方(付添い1名を含む)は、いずれも無料です。

内容・日本を代表するデザイナーとして世界的に活躍した倉俣史朗(1934-1991)。親交のあったデザイナーや美術家の作品と資料も紹介しながら、倉俣が生み出したデザインが時代を超えて愛される理由を探ります。



倉俣史朗《変型の家具 Side1》1970年
青島商店エムプラス展 撮影: 藤原光

《関連の催し物》
○学芸員によるギャラリー・トーク

とき・7/13(土)15:00から30分程度
ところ・企画展示室(2階) / 費用・企画展観覧料が必要です。

○ミュージアム・カレッジ「拡張するデザイン」

内容・埼玉大学教養学部と埼玉県立近代美術館が共催で実施する市民大学講座です(全4回)

とき・7月18日(木)15:00~16:30 ※第2~4回は8月に開催
テーマ・企画展「浮遊するデザイン-倉俣史朗とともに」について

講師・平野到(埼玉県立近代美術館学芸員)
ところ・埼玉県立近代美術館講堂(2階) / 費用・無料
定員・100名(当日先着順。開場は14:30)

問合せ: 048-858-3042(埼玉大学教養学部支援室総務係)

MOMASコレクションII

とき・5/25(土)~9/1(日) / ところ・常設展示室(1階)

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※()内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をお持ちの方(付添い1名を含む)は、いずれも無料です。

※6/30(日)までは65歳以上の方も無料でご覧いただけます。

※県展開催中はMOMASコレクション観覧料が半額になります。

○まち・ひと・ひかり

印象派からエコール・ド・パリの西洋絵画に、日本近代の代表的作品をまじえて、コレクションのエッセンスをご紹介します。

○生誕100年記念 点描の詩情-高田誠の世界

生誕100年を記念して、詩情あふれる点描で独自の世界を展開した高田誠の画業を、当館所蔵の代表作で回顧します。

○ユーモアとリアリズム

そこはかないユーモアを漂わせる作品からどっさりするようなスーパーリアリズムの作品まで、現代美術の魅力をコレクションから再発見します。

○リサーチ・プログラム

ドラクロワをめぐる

近年のドラクロワ研究の成果をもとに、登録美術品《聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち》(丸沼芸術の森蔵)が描かれた背景や画家の意図について考察します。



ウジェーヌ・ドラクロワ《聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち》1860年 丸沼芸術の森蔵(寄託作品)

《関連の催し物》

○サンデー・トーク

学芸員が展示作品から1点を選び、その作品について解説します。

費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

A とき・6/9(日)15:00から30分程度 / 作品・ウジェーヌ・ドラクロワ《聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち》1860年 / 担当学芸員・渋谷拓
B とき・7/21(日)15:00から30分程度 / 作品・高田誠《野尻湖と妙高》1940年頃 / 担当学芸員・中村誠

美術館サポーターによる作品ガイド

とき・MOMASコレクション開催期間中の毎日 / ところ・常設展示室(1階)
内容・美術館サポーター(ガイド・ボランティア)が展示作品について解説します。

費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

アートフルプログラム MOMASの扉

○8月の特別プログラム「サマー・アドベンチャー2013」
どのプログラムも「体験」がキーワード。大人の方から子どもたちまで、夏休みならではの美術体験はいかがでしょう?
※詳細は、当館ホームページをご覧ください。

※7/2(火)から8月のプログラムの申込みを受け付けます。

8月

- 3日(土) 身近なものが生き物に変身!
- 10日(土) 洗濯バサミで絵を描こう! (※事前申込み不要)
- 17日(土) 親子でペーパー・キルト動物王国を作ろう!
- 24日(土) 企画展「浮遊するデザイン-倉俣史朗とともに」関連ワークショップ (※事前申込み不要)
- 31日(土) 座れる段ボールの椅子グランプリ表彰式&鑑賞会 (※事前申込み不要)

SMF リ・スタート!

— SMF は、アートをめぐる多くの人がつながっていくためのプラットフォームです —

5年ほど前、北浦和公園に何千という色鮮やかな風車が立ち並んだ夢のようなシーンを覚えていらっしゃいますか? 当時風車の制作や設営にボランティアで参加してくれた学生さんが今春、美大を出て社会人として活躍を始めたとか、嬉しい便りも聞かれています。「ミュージアムからアートの風を!」とはじまった SMF (Saitama Muse Forum) の活動も今年で6年目を迎えました。

平成20年度からの5年間、事業の名称はさまざまに変わりましたが、毎年毎年、県内の5つの公立ミュージアムがゆるやかに連携して実行委員会をつくり、文化庁のモデル事業、補助事業として予算をいただきながら、ミュージアムをキーステーションに、地域とミュージアムをつなぐ多彩なアートプログラムを、埼玉県内各地で実現してきました(これまでの活動等については <http://artplatform.jp> 参照)。この企画・運営のエンジンとなったのが、美術、音楽、ダンス、建築、文学などジャンルを超えて、アート好きの多士済々のメンバーが集うSMFでした。

SMFでは、各ミュージアムとの良好な関係を維持しながら、助成金や補助金などが特に得られない年でも、定例のフォーラムや勉強会、広報活動など、日常の活動が滞りなく行えるよう、趣意書や会則等を整えてメンバーシップ制で再出発することになりました。今後もさまざまな機会にミュージアムとのやわらかな協働を実現し、アートの方で地域とミュージアムを結ぶ役割を果たしていきたいと思ひます。今後ともご理解ご支援くださいますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。(M.N.)

一般展示室(地階)

※展示により観覧時間(特に最終日の終了時間)が異なります。

◆5/28(火)~6/19(水)

第63回埼玉県美術展覧会(日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真)・・・
一般展示室1~4ほか

◆6/26(水)~6/30(日)

第32回埼玉県高等学校写真連盟写真展(写真)……………一般展示室1
第18回在展(水彩、油彩、版画、彫刻)……………一般展示室2
ポロニアアート絵画グループ展(油彩、パステルほか)……………一般展示室3
王淑芝日本画、彩墨園展(日本画、彩墨画)……………一般展示室4

◆7/2(火)~7/7(日)

第12回埼玉独立展(水彩、油彩、ドローイング)……………一般展示室1
第22回工芸新樹会公募展(工芸)……………一般展示室2
齋藤政治油絵展(油彩)……………一般展示室3
30回記念ロバの会展(水彩、油彩)……………一般展示室4

◆7/9(火)~7/14(日)

第51回新構造埼玉展(水彩、油彩ほか)……………一般展示室1
第29回アート現学展(油彩、アクリル、コラージュ)……………一般展示室2
第26回白の会洋画展(油彩)……………一般展示室3
15th BANSEI EXHIBITION(インスタレーション)……………一般展示室4

◆7/16(火)~7/21(日)

第40回記念埼玉50年展(油彩、彫刻)……………一般展示室1~4

◆7/23(火)~7/28(日)

第9回水彩連盟埼玉西支部展(水彩)……………一般展示室1
第34回太平洋埼玉展(水彩、油彩、版画)……………一般展示室2・3

◆7/23(火)~8/4(日) ※7/29(月)は休館日です。

ヨシズミ トシオ展(油彩、版画ほか)……………一般展示室4
◆7/30(火)~8/4(日)

第1回埼玉中央美術家協会展(日本画、水彩ほか)……………一般展示室1
第4回埼玉植物画の会作品展(水彩)……………一般展示室2
田中いく子、美沙姉妹展(油彩、アクリル)……………一般展示室3

利用案内

開館時間・10:00~17:30(展示室への入場は17:00まで)

休館日・月曜日(7/15は開館)、6/25(火)

入館料・無料 観覧料・県展開催中はMOMASコレクション観覧料が半額になります。

交通・JR東武東上線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)

* 当館に専用の駐車場はありませんが、近くの市営駐車場(有料)、コインパーキングなどがご利用になれます。

団体バスは事前にご相談ください。また、お体の不自由な方のご来館には、業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。

T 330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1

TEL: 048-824-0111 Fax: 048-824-0119

埼玉県立近代美術館ホームページアドレス <http://momas.jp/>



埼玉県立近代美術館